

II 特別連載 II  
科学技術  
振興機構

『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第412回

### 帝京大学の活動報告



河内 正治  
(帝京大学  
アジア国際感染症  
制御研究所所長)

#### ベトナム医療従事者

#### 感染症医療の理論・技術学ぶ

帝京大学アジア国際感染症制御研究所(AIC研)は、科学技術振興機構(JST)「さくらサイエンスプログラム」の支援により、2024年2月26日～3月6日までの10日間、研修プログラムを実施しました。ベトナム国立小児病院から医師9名、技術者1名、ハノイ医科大学から研究者2名の計12名の医療従事者を招へいし、「感染症医療におけるベトナムとの協力体制の強化と適切な感染制御技術の習得」のテーマのもと、▽医療安全管理▽危機管理▽バイオセキュリティについての理論および技術の取得を目指し研修を行いました。

プログラムスケジュール	
1日目	来日、オリエンテーション
2日目	技術取得と討論、結核研究所訪問 講義「バイオセキュリティ」
3日目	帝京大学医学部附属病院(薬剤部)研修 医学部微生物、微生物管理と検出技術の実習
4日目	ADC研究所研修 国立国際医療研究センター国際医療協力局訪問
5日目	救急シミュレーション研修
6日目	自己研修・データ管理・レポート作成
7日目	日本科学未来館訪問
8日目	ADC研究所研修、WHOガイドラインの概要と討論 医学部附属病院(中央検査室)研修
9日目	医学部附属病院(小児科)研修、公衆衛生学研修 日本およびベトナムの施設内ガイドラインの比較討論 附属病院(中検、臨床工学センター、滅菌室)研修
10日目	離日

いてはアメリカ心臓協会(AHA)による心肺蘇生シミュレーション研修を受講しました。この研修ではBLS(一次心肺蘇生法)の認定講習(英語版)などの必要性の高い基本手技を取得することができる招へい者にとつて貴重な経験になり、結果、研修生全員がAHAの受講証を獲得することができました。

#### 1 講義「帝京大学医学部附属病院安全管理部」

医療安全、ヒューマンエラーや報告書の意義などに関する講義、安全文化一般と感染症制御においてWHOガイドラインおよび日本とベトナムのガイドラインの検討を行いました。また、外部講師を招き「世界のバイオセキュリティ規範」について講義を受けました。

#### 2 研修「帝京大学附属病院」

小児科・感染制御部・ME部による病院ラウンド、薬剤部において研修を行いました。招へい者それぞれ専門分野において比較、改善点や進歩について積極的に学んでいました。

#### 3 研修「帝京大学シミュレーション教育センター」

公衆衛生学の研修、医学部微生物学講座での微生物管理と検出技術の実習を行いました。また、シミュレーション教育センターにお

#### 4 実習体験「アジア国際感染症制御研究所」

ウイルスや細菌検査技術実習体験を行いました。普段あまり目にするこのない研究機器や設備に興味関心を持った様子でした。

#### 5 研修「帝京大学附属病院／結核研究所／国立国際医療研究センター」

附属病院および大学外での研修として、結核研究所(東京都清瀬市)および国立国際医療研究センター/病院(新宿区戸山)を訪問し、医学教育と感染症制御の実情、ベトナムの医学教育と実践について講義、意見の交換を行いました。これらの日本の感染症治療の中核となる二つの医療機関・病院での講義や感染症施設見学等は非常に有意義な時間となりました。

#### 6 意見交換会/修了式

最終日は、附属病院や大学でご協力いただいた教員の方にもご参加いただき本プログラムを通して学び習得した事や、これらを今後



国立国際医療研究センター訪問



WHOガイドラインの概要と討論



帝京大学医学部生のベトナム実習(2024年7月)

「さくら」の精神はベトナムで生きています。本当にJSTの皆さんにはお世話になりました。がとうございました。



シミュレーション研修

ハイさんで5人目になります。さくら同窓生たちは学生実習や他の研究活動に際しても力になってくれる頼もしい人材です。やはり、「さくらサイエンスプログラム」の持つ魅力は、この国際交流にあると思います。特に学生や大学院生と研究者との交流はなかなか難しく、学生たちには学習の良いきっかけになったと思います。6年次に1カ月のBSC (Bed side clinic) を海外で選択した学生も、すでにベトナムメンバーから5人を数えました。本当にJSTの皆さんにはお世話になりました。がとうございました。

どのように自国の医療において活用できるかまた、どのような事が今後の課題となるかについて意見交換を行い、修了証を授与し終了しました。

10日間という短い期間でしたが、近隣国より招へいするには十分な期間でした。本プログラムでの研修以外でも日本の文化等実際に目にした経験したり出来たことは招へい者達にとって貴重であり、想像していたことが実体験として肌で感じられることは大きな意味があると考えます。

本プログラムを通して、帝京大学が実施している医療安全や感染症制御に関して理解を深めてもらう事ができたと思います。自国との違いを感じ、積極的に質疑してくださる姿に受入れ機関として私達も学ぶ事が多い研修となりました。これを機に今後もこのような交流活動を活発に行うことで連携を深め、これまで以上に現協力協定の進展に繋がることを期待しています。

### ■ 後日談と今後の展望

2024年7月に8日間の日程で帝京大学医学部5年生の学生14名を引率して、ハノイベトナム国立小児病院にてBSL (Bed side learning) 実習を行って参りました。過去「さくらサイエンスプログラム」に参加した職員(医師、看護師、研究者)が講師や仲介役となつて、学生の補助をしてくださいました。学生の評判は非常に高く、当初5人の学生で始めたものが、参加希望者が回を追うごとに増え、とうとう引率限界に近い人数になりました。実際に海外の病院でのBSL実習は難しく、なかなか学生を連れて行くことはできないのが大方の現状ですが、カウンターパートとして、さくらの同窓生が病院に働きかけて、実現したものと思います。もう9回目となりました。学生の単位を授与するため、2019年からはMOUを締結して単位互換が可能な体制にもなっています。

もう一つ、帝京大学アジア国際感染症制御研究所では、この何年間か常にベトナムからの大学院生が一人か二人在籍しています。彼らも、さくらの同窓生であつたり、さくら同窓生からの推薦で本研究所を選んでもくれた人たちで、現在在籍中のハイさんで5人目になります。